

三重看護学誌第10巻の発刊に寄せて

看護学科長 大 面 和 子

三重大学医学部看護学科設置から、はや10年が過ぎました。光陰矢のごとしと申しますが、本当にこの10年は速かったように感じます。教員、事務職員、学生の皆さんの協力や努力があって、ここまで来られたものと心より感謝いたします。教育は10年が一区切りと言われますが、確かにこの10年間は学部生を卒業させ、修士学生を修了させ、今やっとそのパターンに慣れてきたように感じます。大学教員の役割は、教育、研究、社会貢献などがありますが、看護系教員は、少ない定員数のなかで教育に非常に熱心であるため、研究に費やす時間が教育にかける時間に比較すると少ないように思います。そのような状況の中で、教員の皆さんが日夜努力を重ね研究されたものが、三重看護学誌に論文として掲載されており、また1年間の各教員の業績や社会貢献が巻末に報告されております。毎年、教員の活動、研究成果がわかるようになっていきます。

本誌は、平成元年に三重大学医療技術短期大学部として開設された当初から、医療技術短期大学部紀要を発行してきましたが、平成9年10月に医学部看護学科へと移行してから三重看護学誌と名称変更を行いました。そのとき、読みやすくするためにA4サイズへと拡大し、内容も充実させてきました。平成16年度からは看護学修士の修了生を輩出するようになり、その修了生たちが修士論文を三重看護学誌に発表するようになりました。論文は、本学の教員が主に発表していますが、所属の異なった研究者も発表しています。内容は、原著、総説、研究報告、資料などがあり、質的、量的な研究がなされています。三重看護学誌編集委員会は、本学科の4名の教員により運営され、原著に関しては、その委員会が査読者2名を学内教員から選抜し、査読のプロセスを踏んで編集を行っています。

医療技術短期大学部時代、全教員が4年制大学設置に向けて業績作りに必死だったことを懐しく思い出します。その当時は、年に2回の紀要を発刊しており、ほとんど全員の教員が論文を発表していました。しかし、現在、看護学の専門分野の学会誌が増えたことにより、本学科すべての教員が三重看護学誌に投稿しているわけではありません。これは強制的なものではないのですが、できれば1編は掲載してほしいと思います。

さらに、将来、看護学博士課程設置をするときに、質のよい研究業績が評価されますので、論文内容の質的向上を目指して研鑽を積んでいく必要があります。そのために、将来的には、三重看護学誌を三重看護の学会誌に昇格させることもあってよいと思われます。早くから4年制大学としての歴史を積んでいる看護系大学では、紀要ではなく学会誌として幅広い会員を持ち、多くの人からの論文を掲載しています。本学科もそのうちに大学卒業生や修士修了生たちが増加することにより、三重看護学会として発展していくことも視野にいれておく必要があるかもしれません。

今後、さらに三重看護学誌が発展していくことを祈念するとともに、これまでの三重看護学誌編集委員会の皆様のご尽力に深い感謝の意を表します。